

第4回 垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 会議録

1. 日 時 : 平成 27年 8月 27日 (木) 15:00 ~ 16:40
2. 場 所 : 垂水市役所3階 第一会議室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - ①垂水市人口ビジョン (素案) について
 - ②垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (素案) について
 4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇 雅弥 市長 ・岩元 明 副市長
・佐野 雅昭 会長 ・篠原 重人 (代理) ・脇元 浩継 (代理)
・北迫 透 委員 ・北川 善郎 委員 ・宮迫 隆憲 委員
・岩橋 由紀 委員 ・福村 功次 委員 ・上村 智彦 委員
・田中 加奈子 委員 ・森 真由美 委員 ・宮下 直弥 委員
5. 欠 席 者 : ・川畑 博海 副会長 ・永田 兼一 委員
6. 事 務 局 : ・角野 課長 ・堀留 係長 ・脇 主査
7. ・有馬 主任主事

事務局 … 委員の皆さまにおかれましては、大変ご多忙の中、本審議会にご出席いただき、ありがとうございます。

開会の前に欠席の報告を行います。本日、M委員、F委員につきましては、仕事の都合により欠席の御告を頂いております。また、E委員、C委員におきましては、若干遅れるとの連絡がありました。

それでは、垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第6条第2項の規定によりまして、過半数の委員の出席を頂きましたので、ただいまより、平成27年度第4回垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。

ここで、まず、市長よりごあいさつを頂きます。

市長 … 「垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

委員の皆さま方には、大変お忙しいところ、審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

前回は、「垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の骨子を説明させていただきました。

骨子案に対しまして、委員の皆さまから、大変多くのご意見を頂いていると報告を受けております。感謝申し上げます。感謝申し上げます。

本日は、骨子案に対して、庁内の担当課との協議や審議会の皆さまから出された意見を反映させた素案をもとにご説明させていただきます。

なお、今回の素案をもとに、9月よりパブリックコメントに付しまして、多くの市民の皆さまからのご意見を伺うことや、審議会の皆さまからのご意見や庁内の担当課との協議を経たのち、最終的に原案につなげて参りたいと考えているところでございます。

本日の審議会におきましては、改めて、垂水市の地域課題の解決に向けて、積極的なご意見ご提案を頂き、ご議論賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。開催のあいさつとさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

… ありがとうございます。

それでは、会次第3の協議に入りたいと思います。議事進行を本審議会の会長でありますG会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

G会長

… 委員の皆さま、本日もよろしくお願いいたします。それでは、早速、協議に入りたいと思います。

協議①垂水市人口ビジョン（素案）について、とありますが、事務局に説明をお願いしたいと思います。

事務局

… 皆さま、お疲れ様です。

説明の前に資料の確認をさせていただきたいと思います。

垂水市人口ビジョン（素案）、垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）、こちらは先日お配りしております。あと、当日資料としまして、人口ビジョン（骨子案）に対する意見、垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）に対する意見、こちらを使用しまして、ご説明させていただきたいと思います。

はじめに、本日は、前回の審議会におきまして、骨子案に対してご説明させていただきましたけども、それに対して委員の皆さまから多くのご意見を頂きまして、ご協力誠にありがとうございました。

こちらで（スクリーン提示）、骨子案に対するご意見を頂きまして、今回は、ほぼ中間という位置付けであります。今回は素案に対する説明をさせていただきます。最終的に、9月のパブリックコメントを踏まえて、最終的な原案を示していきたいと思っております。

まずは、こちらの垂水市人口ビジョン（素案）について、説明させていただきます。

まず、結論から言いますと、人口ビジョンの最終ページをお開きくだ

さい。こちらのほうで、結論としまして、本市における人口ビジョンにおいて、人口の将来展望を 12,000 人程度の人口維持を確保したいということで位置づけております。

前回の骨子案の説明の時にも 12,000 人のシミュレーションで言えばパターン 4 ということで、将来展望を目指したいということで、お話したのですが、骨子案に対する意見のまとめということで、「全国的に人口減少の中、現在の人口と比べても 12,000 人という人口の維持は厳しいと思われる」や「ハードルが高く感じる」といったご意見を頂いたのですが、人口の将来展望 12,000 人を目指したいとしております。

それでは、なぜ、本市として 12,000 人を設定したのかということになります。2つの点を考えて人口の将来展望を設定しました。

ひとつが、減少率、もうひとつが人口構造の変化（若返り）、そういう視点で 12,000 人の設定をさせていただいたということになります。

まず、減少率に関して言えば、国が策定している長期ビジョンにおいて、日本の将来展望を 45 年後の 2060 年には 1 億人程度の人口を確保するとしておりますが、平成 22 年の国勢調査時の日本の総人口は、1 億 2,806 人で、その減少率が 20%程度となっているのですが、本市が 12,000 人という設定をした場合、現在と比較して約 25%の減少率となるものですから、ほぼ近い水準の減少率になることが、ひとつのポイントとなっております。

また、もうひとつが人口構造の変化になりますが、国の長期ビジョンにおきましても、出生率を 2030 年までに 1.8 程度に改善を図り、人口の若返りを目指すとしております。

本市の現状は皆さんご存知のとおり、少子高齢化の構造となっており、このまま進むと、2040 年には、生産年齢人口 0.94 人で 1 人の高齢者を支えることが予想され、このことから、国や県並みの 2 人で 1 人の高齢者を支える社会のために、人口構造の若返りを図らなければならないことも判断要因の一つとなります。

以上の減少率と人口構造の若返りを考え、自然動態としての合計特殊出生率の変化や社会動態として転入・転出の均衡化を図ること、また、家族移住の促進といった、いくつかのパターンでシミュレーションを行った結果、人口ビジョンの 44 ページになりますが、前回の審議会でお話ししましたパターン 4 になり、パターン 4 を本市の目指すべき方向性とさせていただきました。

また、他の委員の方から意見がありましたが、なぜ 2030 年を分岐点に合計特殊出生率などを変化させているのかとありましたが、これは、人口減少対策を打ち出したとしても、人口増加がすぐに反映され訳ではないこと、また、国において、2030 年をポイントとして 1.8 程度を目指していることから、15 年後の 2030 年をポイントとして取り組みを進めてい

ければと考えた次第であります。

この人口ビジョンの将来目標人口の実現に向けて、後ほどお示しします垂水市の総合戦略において出生率の向上に向けた取り組み、移住定住に対する支援、また、最も重要な若者の雇用対策への取り組みを進めていく必要がございます。

なお、この人口ビジョンは、国の長期ビジョンだったり、国が示している手引きがあるんですけど、それに沿って、垂水市版をこういう方向で作りました。

今、結論から言った部分がここになります。本市の目指すべき方向であったり、将来展望というかたちになるんですけど、基本的に、この人口ビジョンの大多数が人口の現状分析を行っております。その後、色々な仮定値を加えてシミュレーションをお示ししているんですけど、あと、人口の変化が地域の将来に与える影響であったり、当然、人が減れば生産年齢人口も減るということになり、産業活動の低迷が発生したり、少子化によりまして子育て世代にとって重要な教育の面においても影響が出てくるのではないかと考察しております。また、医療とか、人口が減ることに伴う税収減によります公共サービスの維持困難、そういったことが考えられるということから、人口減に歯止めをかけるということで、先程言ったように、垂水市は人口ビジョンにおいて 2060 年 12,000 人程度の人口確保を行いたいということで展望をお示したところでございます。

以上が、垂水市人口ビジョンの説明になります。

G会長

… ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局の説明に対しまして、質疑・ご意見をお伺いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

出されました意見書へのご回答と言いますか、事務局としての考えを説明していただいたのですけれども、何かご意見があればお伺いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

ご意見でもありますように、大変厳しいと言いますか、実現が困難な目標にはなっていると思っておりますけども、逆に言いますと、12,000 人という人口を維持できないということになると、大変厳しい状況になってしまうということもありまして、こういう目標を掲げて、なんとか実現するように努力することが大事なのかなと、説明を受けて、私は感じたところであります。

いかがでしょうか。この数字に関しまして、何かご意見がございますでしょうか。

市長のほうから人口ビジョンに関しまして、どのようにお考えなのか、一言お聞かせ願いたいのですが。市長、いかがでしょうか。

市長 … 前回、少しお話をさせていただきました、まちづくりの中で人が増えていくのが良いのですが、減っていくのをどうやって抑えていくか。他のアンケートによると、2040年までに鹿児島県下で30万人の人が減っていくという中で、何をしなければいけないのかというところでの数字であります。さらに、今回、ご提案頂いたような考えを具現化することによって、12,000人程度を目標に頑張っていきたいということでもありますので、一つ一つやれることをやっていきながら、12,000人に近い数字を出していきたいと思っていますところ です。

G会長 … ありがとうございます。
このように、高い目標ではございますけども、目標を掲げて頑張っていくことだと思います。
また、そのための第一関門と言いますか、目標が2030年の合計特殊出生率になります。ここで、1.8を目指すということでございますので、当然、子育てのところが一つの焦点になってくるとは思いますけども、いずれにしても、このような、中長期的な目標を掲げるということにつきましては、他にご意見がないようでしたら、この審議会の合意としたいと思 います。

よろしいでしょうか。（「はい。」という声あり。）

それでは、そういうかたちで今後の素案から総合戦略づくりに反映して いただきたいと思います。よろしくお願 います。

続きまして、協議2に移りたいと思 います。垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、事務局より説明をお願いいたします。

脇主査 … それでは、次に、「垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」 について、ご説明させていただきます。

総合戦略の4ページをお開きください。

前回の審議会の時にご説明させていただきましたが、本市の基本目標 については、国の総合戦略であったり、国の手引きを参考に、地域の課 題解決に向けての取組を考えた結果としまして、国の総合戦略に沿った 基本目標を設定し、地域課題に取り組んでいくことといたしました。

本市が目指す地方創生において、政策分野ごとに4つの基本目標を設 定いたしました。

5ページ目になりますが、基本目標①「垂水市における安定した雇用 を創出する」として、ここでは、政策分野の「しごとづくり」としてお りまして、しごとを生み出すということで、数値目標の雇用創出数であ ったり、新規創業者数などですね。そういった数値目標を設定しており ます。5年後の数値目標として設定させていただいております。数値目 標を達成するために、講ずべき施策の基本的方向性としまして、既存産 業の育成や経営の安定化を図ったり、地域資源を生かした創業支援、企 業誘致の推進、魅力あるしごとづくりの推進、このような3つの基本方

針を設定しております。

6 ページ目をお開きください。各取組を掲載しておりますが、既存産業の育成や経営安定化の推進、これによりまして、6 次産業化の支援であったり、販路拡大の支援、また、審議員の方から出された意見としまして、農業分野などの労働力確保に向けた取組としております。また、今後の地域の人材の確保・育成を目的に、経営セミナー等の開催を進めていきたいということで、取組としております。

次に、8 ページ目をお開きください。

地域資源や空き店舗等を利用した創業に向けた支援や地域金融機関との連携による本社機能移転を含めた進出希望のある企業のニーズに対応した体制整備を図っていきたいと考えております。

その他に、子育て世代のお母さん方からの意見になっておりますが、子育て後に職場復帰する時に地域で活躍できるように資格取得に向けた支援策に取り組んでほしいということでありましたので、そこも含めた取組を進めていきたいと考えております。

このようなかたちで、この基本目標①で雇用の創出に繋がりたいと考えております。

次は、9 ページになります。基本目標②「垂水市への新しいひとの流れをつくる」として、ここでは、政策分野で「人の流れ」としておりますので、数値目標の部分が総交流人口に対する数値目標であったり、移住定住策を目的とした社会増減の目標設定を掲げております。

次に、10 ページ目をお開きください。

こちらの取組としまして、交流人口の拡大に向けた、国内・国外の教育旅行の誘致活動や、これまで説明しました「南の拠点整備」、道の駅たるみずなどの既存施設との周遊性を図る観光メニュー開発やPR戦略などを進めていきたいと考えております。

なお、南の拠点に関連しまして、日本版DMOといたしますが、このDMOの取組を進めてまいりたいと考えております。このDMOなのですが、本市の観光振興において、観光協会や事業所などが一体となり、観光マネジメントを推進する組織であります。南の拠点整備を進めるにあたり、このDMO導入への取組も今後進めていきたいと考えております。

次が、移住定住促進に向けた取組としまして、本市でも問題となっている空き家の有効活用や民間資金を活用した集合住宅などの受皿づくりを進めていきたいと考えております。

これらの取組により、新しい人の流れにつなげていきたいと考えております。

次に、12 ページになりますが、基本目標③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」として、数値目標として出生数を設定しております。あと、垂水市の未婚率が他よりも高いということで、未婚率解

消に向けた取組を数値目標としております。ここでの、講ずべき施策の基本的方向としまして、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりの推進、若年層が暮らしやすい環境づくりの推進となっております。

13 ページ目から各取組になりますが、妊娠期や子育て期に必要な相談・支援体制の推進や仕事と家庭の両立を進めていきたいと考えております。また、委員の皆さまから出されました、子育て世代にとって教育に関する関心が高いことから、教育環境の充実を図っていきたいと考えております。

その他、若年層の未婚率を改善に向けて、現在、商工会青年部が行っています婚活イベントがありますが、また、新たな出会いの場の創出したりなどして、未婚率の解消を図っていきたいと考えております。

これらの取組により、若者や子育て世代の希望実現に繋がりたいと考えております。

また、委員の皆さまから出された意見なのですが、子育て世代に対する支援を市外に発信しないと人は入ってこないというような意見もありましたので、今後は、子育て支援の充実を図っていくとともに、市外に対して子育てしやすいまちだということなどの情報発信の強化に努めていきたいと考えております。

最後に、16 ページになります。基本目標④「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」としまして、ここでは、政策分野の「まちづくり」としてしております。この基本目標④の中では、先程も説明しましたDMO。DMOで地域が儲かる仕組み、稼ぐ力を引き出すということで、この数値目標では全事業所での売上高を設定しております。それと、一番重要な、現在住んでいる方が今後も垂水市に住み続けたいと思うことが重要だと思いますので、その割合も数値目標に設定いたしました。

各取組としまして、地域経済の発展を目指したDMOの推進を図り、その推進のため、新たな拠点を中心としたエリアにおいて、民間活力を導入した産業・観光振興に向けた支援を進めていきたいと考えております。

また、これまで、垂水市では地域振興計画を策定しておりまして、そこで住民によるまちづくりを進めていることから、そこを充実させていきたいと考えております。また、安心安全な取組も進めていきたいと考えております。これらの取組によりまして、住み続けたいまちづくりに繋がりたいと考えております。

以上が、垂水市総合戦略における取組内容となっております。

今回、具体的な事業展開としまして、骨子案の時と違いまして、具体的な事業名が掲載されておられません。以前は、事業名を具体的に掲載していたのですが、そうすることによりまして、この総合戦略は今後5年

間なのですが、国が新型交付金を打ち出すということになっているのですが、まだ、その詳細が示されていないことから、国からの交付金に対応しやすいように、このような表現にさせていただきました。

ただ、委員の皆さまから出されました意見・事業などは盛り込んだつもりでございます。ですので、今後、9月にパブリックコメントを実施して、住民の方から素案に対しての意見を伺うと同時に、担当課と具体的な事業を詰めていき、この総合戦略とは別に、実施計画を策定し、そこで事業の進捗管理を垂水市としては今後おこなっていき、それぞれの数値目標を目指して、取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上が、協議2の説明になります。

G会長

… ありがとうございます。

前回の骨子案を含めての説明でございました。そして、骨子案に対する皆さまからの意見を反映させたて、踏まえたかたちで、事務局のほうで、今回、素案を作り上げたということでございます。

本日の審議会の目標は、これでいいかという、皆さんの了承を頂くということだと思います。自分の出した意見などがちゃんと盛り込まれているのか、あるいは、さらに新しい意見を盛り込む必要はないのか。そのあたりを考えて頂いて、この素案の最終確認をしていただきたいと思えます。みなさんからのご意見を色々伺いたいですけど、まずは、私のほうから意見がありまして、最後のほうの説明でもでてきましたけども、DMOについてであります。あまり馴染みのない内容なものですから、このままだとこの場の委員のみなさまもでしょうし、パブリックコメントを求めるにしても、市民の方も少し分かりにくいのかなという気がしますので、基本目標②の人の流れをつくるというところで、観光を進めるうえで、南の拠点をやっていくんだということで、このDMOという新しい組織の導入を検討することだと思うんですが、もう少し、事務局のほうに分かりやすく説明していただければ、ありがたいかなと思えます。

事務局

… DMOについての説明ということで、素案のほうにでてきているんですけども、用語説明の部分に出てきています。ここでは、様々な観光資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり・ウェブ・SNS等を活用した情報発信、プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等について、地域が主体となって行う観光地づくりの推進主体という書き方がしてあり、イメージが持てないと思えますけど、簡単に言いますと、垂水に置き換えてみたら、庁内に水産商工観光課があるんですけども、その中に観光協会というものがあります。観光協会は法人格を持っておりません。今回のDMOというものは、推進主体という言葉が示すとおり、色々企画をして、お金を取って、サービスを提供したり、運営したりという組織になります。先程言いました、法人格を持った組

織になりますので、色々な展開がしやすくなるというようなことがメリットとして言えます。法人格を持って会社のような運用をしていくわけですので、そこには経営的な視点がないと赤字が出てしまいますので、赤字がでないように、どういった戦略を立ててだとか、どこをマーケットにして何を売っていくのかななどを、しっかりと計画を立てながらやっていかないといけないということが求められます。そこで、今回、このDMOをつくるにあたって、国はローカルアベノミクス 2015 の中で、国自体がこのDMOの設立にあたって色々と支援していきますよと打ち出しております。先程言いました、経営、情報発信、プロモーションの分野は、垂水もそうですけども、鹿児島県自体もなかなかうまいことってないのが現状でありますので、こういったのをうまく国の制度や国の協力を得ながら、国のプロと言われる人達を招聘しながら、うまくプロモーションしてするための戦略とか企画とか、マーケティングの考え方とかを、このDMOという組織の中で解決して、商品開発をしていったりすることを目指すものとなります。ですので、また、話は戻りますが、市がやるべき話というものは、公共的なもの、本分として利益を取るようなことはしないわけなんですけども、市がやる観光分野の取組とか、観光協会の取組とか、そういったものを新しい組織の中でやっていきたいと思いますというような趣旨ですので、新しい取組は新しい取組です。私達も新たなチャレンジということで、これから情報収集をしながら、説明や考え方や理念を共有していきながら取り組んでまいりたいと思いますので、まずは、観光協会が法人化するだというイメージで考えていただけたらと思います。

解りにくいかもしれないんですけども、資料がありますので、ここにも示してありますとおり、法人格を持たせて、どのような計画を立てて、DMOがどのようなことをするのかということが、私が探し出した資料がございましたので、参考にさせていただければと思います。

G会長 …… 今、資料が配られていると思いますけども、こういったものを垂水においても推進するということですかね。今の説明ですっきりしたかどうか分かりませんが、何かご質問があればいただければと思いますけども。いかがでしょうか。

先行自治体とかはどこかあるんでしょうかね。

事務局 …… 先行事例なんですけれども、九州管内でもいくつかありまして、大分県日田市がありまして、日田観光協会があるんですが、これが一般社団法人化しています。他には社団法人などでしているところもあります。

例えば、日田市の例で言いますと、ここのトップの人が九州じゃらんの元編集長で就任して、じゃらんなどの意識改革を進めて、収入が3倍になったとあります。そういう実績を残しているところもあります。ですので、例えば、編集長という情報発信のノウハウを持った人材を入れ

て、かつ、経営的な視点で業務を見直してやっていく手法でうまくいっているところもあります。いくつか社団法人化されているところもありますので、それから、国もこのDMOという言葉を使いだしたのが、ごく最近でありますので、これから色々と情報が出てくると思います。

G会長

… 大分、具体的なイメージも湧いてきたかと思えますけれども、既存の観光協会が法人格を持っていない。いわゆる、業界の首謀団体でしかないということですが、それを、法人化して実際の事業主体として、主体性を持って垂水市の観光開発に取り組んでいく。そこでは、総合的な機能を持って、垂水の地域資源を集約して、情報発信していくというイメージなのかなと思います。

個別バラバラにやるのではなく、合意組織に集約して、散漫にならないように統一的なアイデア、統一的な地域ブランドづくり、ということで、進めていくんだということだと思います。

おそらく、そこには、それなりの専門性の高い仕事でしょうから、スカウティングなどで人材が必要になってきますので、日田市の例で言えば、外部の産業の人を引っ張ってきてやって成功しているんだと思えますけれども、そういったことも視野に入れて、進めていくんだと思います。

そんな理解でよろしいんでしょうかね。（「はい。」という声あり。）

観光協会のレベルアップと機能向上ということで、さらに、そこが主体となってやるということだと思います。

そのあたりは、南の拠点作りで具体的には、より現実的なかたちで見えてくるのではないかと思います。それも、この素案の中に含まれていると思います。

みなさんはいかがでしょう。それぞれの立場で注目する観点は違うと思えますけれども、特に注目しているところを一言ずつでもお話頂ければと思います。

それでは、今回は、L委員からお願いできますでしょうか。

L委員

… 観光協会を法人化するイメージということであつたんですが、そこで、大分県日田市の例を挙げてもらったんですが、自分たちのまちの魅力というのは、自分たちで再認識することができない部分もありますので、じゃらの元編集長というような方のように、外の目線からプロデュースすることが大事なのかなと思います。

鹿児島で言えば、県観光プロデューサーの奈良迫さんたちのような、その道のプロをトップに据えて戦略を練っていくのは非常に良いと思います。

あとは、この前FAXで意見を書かせていただいたことが、ほとんど盛り込まれて反映されているのかなと思います。

とにかく、新しい人達に来てもらって、住んでもらうためには、夢とかそういったものもありますけど、やっぱり、仕事がないと、そこに住

むということにはなっていないと思います。

私たちの大野地区で言えば、ここ数年で若い人達が4～5人ぐらい移住してくれてきているんですが、やっぱり、職があるということが一番大事で、あとは、地域の人に溶け込むとかは後からついてくるんだと思いますが、仕事、就職という部分と、垂水市に向けてのPRだけではなくて、市外や外部に向けたPRが非常に大事なのかなと思います。

垂水市が独自に打ち出して、新しく人を呼び込めるような戦略をしていって、この前も言いましたけども、人口減少という問題は垂水市だけの問題ではなくて、日本全体の問題ですので、パイは限られているので、如何に垂水市に入ってきてもらって、住み続けてもらうことが大事なので、他の市町村から、そんなことをされたら垂水市にばかり人が集まるじゃないかと言われるぐらいの魅力的な政策を進めていかないといけないと思います。

G会長 …… ありがとうございます。周辺自治体との競争だと思いますので、そこに勝って、より魅力のある地域づくりをやって、人を引っ張り込む。そうしないと、12,000人の目標は達成できないのかなと思います。そのためにも、垂水市のPRをしっかりとやって、情報発信は常にやっていかないといけない。そのあたりも、DMOの力が発揮されるころだと思います。

大野では職があるからだとおっしゃいましたけども、どのようなものがあるんでしょうか。

L委員 …… 具体的に言いますと、鹿児島大学農学部の演習林がありまして、もりんちゅ倶楽部といって若い人たちが地域活動を何年かしてきておりまして、その卒業生が地域との交流がありまして、鹿児島市内に住んでいて働いていたんですが、仕事が転換期ということで辞めて、そしたら、鹿児島大学演習林関係の仕事がありまして、そこに1人、女の子なんですが、就職したということがありました。また、NPO法人が数年前に立ち上がりまして、鹿児島大学のOBということで、地域活動やPRなどの色々なものをして、子供たちを受け入れて、自然活動をしているというのもあります。あとは、近くにジャパンファームという工場がありまして、Uターンで30代の方なんですが、仕事を辞めてこちらに帰ってきて、仕事がないかということで相談を受けまして、ジャパンファームがありまして、仕事があって、働けるということで、まだ、1か月ぐらいなんですけど、そういう方もいらっしゃいます。

G会長 …… 仕事があれば人も戻ってくるということですね。ありがとうございます。次に、子育てのほうなんですけども、K委員いかがでしょうか。

K委員 …… 子育てに関しましては、資格取得ということで、お母さま方が再就職するときに、なかなか仕事がないということで、資格取得支援に関することが盛り込まれておりましたので、実際、垂水市に専門学校とかがな

いので、こちらにも力を入れて欲しいなという思いがありました。空いた時間でしか勉強ができないということから、市外にまで行くということになると、行き帰りに時間を要しますので、身近なところで資格取得できるというのは利点が大いではないかなと思います。

先程、交流人口を増やすということでDMOの話もあって、大分県日田市の事例が出たんですが、あまり本格的に浸透していないということだったんですが、私も今日初めてこの言葉を聞いたものですから、若干不安な部分もあります。専門家を呼ぶというのも、色んな分野で色々な方々がいらっしゃると思いますので、人材については、検討を重ねて頂いて、有力な方を呼んで頂きたいなと思いました。

G会長 …… ありがとうございます。続いて、J委員お願いします。

J委員 …… この人口ビジョンのアンケート結果を見ますと、仕事がないということから、住んでみたいと思わないというところに繋がっていると思いますので、この新たな南の拠点にすごく期待しております。この南の拠点が雇用を生み出して、もっともっと垂水に若い人たちが入ってきてくれたらいいのかなと思います。

この総合戦略の素案を見せて頂いて、これが実現していったら、とても素敵なまちになるのではと期待を膨らませているところです。具体例として示されている事業展開が確実に実施されるようにチェック体制をしっかりと頂いて、また、このような取組をしていますということを市民のほうにも情報を流して頂けたら、ありがたいなと思っているところです。

G会長 …… ありがとうございます。確かに、取組の進捗の評価・チェックは繰り返しやっていると、長丁場の話ですから、途中で社会情勢の変化もあるでしょうから、チェックしながら改善するところは改善していく必要もあるでしょうし、計画を作ったから終わりではなくて、実のあるものになるように、そのへんの体制をしっかりとやっていただきたいと思います。非常に大事な観点だと思います。

次に、金融機関のH委員とI委員、お願いします。

I委員 …… みなさんがおっしゃるように、仕事をする場がなければ人口減に歯止めがかからないような気がします。

先日、垂水高校に行きまして、今年就職活動をしている生徒たちと話をする機会があったんですけども、今年は20名前後いるようでして、その中で地元企業に就職する生徒が3名でした。あとは、県内が多かったんですけど、やはり、地元の企業に就職して欲しいなと思ったんですけど、そうするためにも、垂水の企業から求人を出せるような、例えば、市の広報紙を利用したりして企業のPRして求人を出すのも一つの案なのかなと思います。できれば、地元に残って、家族を持ってというのが

理想なんでしょうけど、それを留めるだけの企業の情報がないような気がします。以上です。

H委員 … この前の意見の中で、夢がないとやる気が起こらないという意見を出したんですが、そこで、この中の南の拠点が一つの目玉になると思うんですが、質問になりますが、これの具体的な完成時期はいつなのか。南の拠点のイメージがあれば、参考に教えて頂ければ、みなさんもイメージが湧いて、やる気が起こるような気がするんですけども、ありましたら、教えてください。

G会長 … 事務局のほうから、南の拠点に関しまして、もう少し具体的なイメージなどを、今の時点でのアイデアと言いますか、ざっくりしたプランのようなものがありましたら、お願いできますでしょうか。

事務局 … 南の拠点ですけれども、前回、情報発信ができる施設だとか地域資源を生かした食を提供できる場所などを含めて、人が集まって情報発信までできるような施設という、今現在、抱いているイメージでございます。

G会長 … スケジュール的にはどんな感じなんですか。

事務局 … イメージ図は、早ければ年末とかそういうレベルで、まとまるのではと思っております。

先程、チェック体制が云々という話がありましたけども、総合戦略の審議会は全5回で予定していたんですけど、本来、審議会というのは、計画作りと進捗管理の機能もございます。一方で、予算などのチェック機能としては議会があるんですけども、審議会の皆さまには計画作りにしっかりと参加して頂いたと同時に、もし、予算が付くようであれば、2月か3月に集まって頂いて、来年やる事業の話ですとか、南の拠点のイメージなどが出来上がってれば、お示しもできるのかなと思ってますので、本来は5回の予定なんですけども、1回プラスしてということも可能性としてはあると思って頂ければと思います。

G会長 … 南の拠点の施設がいつ頃できあがるのかなと。東京オリンピックの施設ではないですけど、なかなか、難しい問題だとは思いますが、なるべく早くやらないと先延ばしになるというのは、人口を維持するためにも早くやったほうが良いと思いますので、いかがでしょうか。

事務局 … 基本的な考え方としまして、建設に向けての方式、どのような財源の方式をとるのかといったことも検討しております。PFI方式といったものを取り入れながら、通常の手順でやると、この程度かかるけども、今回の場合はこのような手順でいきたいという構想では、29年3月ぐらいまでには、かたちにしないといけないと考えておりますので、大分、急ぎ足で進めていきたいと、事務局としては考えておりますので、本日お越しの委員の皆さまにもご協力を頂きながら、手伝って頂くことがあると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

G会長 … 夢物語から大分ぐっと現実的に感じた気がしました。

垂水高校の就職の話がありましたけども、地元就職が3名しかいないということでありました。学生との求職のマッチングの問題があるんでしょうけど、できれば、そのあたりも新しいDMOはうまく取り込みながら、マッチング機能なども持てれば良いのかもしれないですね。

できることはなるべく早くやってもらったほうが良いと思いますので、市の広報で企業情報などを発信できるのであればしてもらえれば良いと思います。求人があるのに、人が集まらないというようなことがあれば、もったいないと思います。

それでは、農業分野のE委員お願いします。

E委員 … 私のほうからは、仕事づくりの推進に関連して、前回まで色々な意見を出させて頂いたことも含めて、具体的な事業展開ということで、より多岐にわたる事業が挙げられているなど感じました。

この中で感じたことなんですが、6次産業化支援であったり、販路拡大であったり、農業に関しては、新規就農者及び法人化へ向けた支援ということが挙げられているんですが、これも、市から発信して、それに応えてくれる人を見つけて、それから、組み立てていくということになりますので、色々な準備期間であったり、色々なものが必要になると思うだけに、長期に渡って本当に実現できるのかということに心配があるのかなと感じました。

それから、先程お聞きした垂水高校のお話を聞いて感じたことなんですが、この農業とか地場産業は、学生とといいますか、地元に住る時点からより身近に感じられたりですとか、企業さんとのマッチングだけではなくて、地場産業との関わり合いというものも深めていけたら、新規就農であったり、6次産業化に関わりたいという方も、より早いうちから学んでいける期間ができるのではと思いました。

人口のほうに関して、C C R Cという言葉が最近私も聞き始めたところだったんですが、これに関して、人口の若返りとどのように、相反すると言っては何なんですが、若い方を受け入れて、都市圏に住んでいる高齢者の方々にとっても魅力的なまちをつくるという点からは、垂水市内のより細かな地域、ベッドタウンと言っても、私の住む地域はより高齢者の多い地域であったり、市内のより利便性の高いところは若年層の方々に来て頂きたいとか、より細かい地域間の能力の振り分けも必要になってくるのではないかなと思いました。

G会長 … 続けて、D委員お願いします。

D委員 … 農林業の振興ということで、新規就農者及び農業法人化に向けた支援など、色々なものがあるんですが、今、自分の周りでも、体がキツイとか言われる方もたくさんいて、農業を始めたという方は本当に微々たる

ものです。その中で、垂水市の農業を支えていくためにはどうやったらいいのかとかを考えたりするんですが、農業新聞で長崎県が取り上げられていたんですが、長崎市自体が遊休地をきれいに整備して、農業者を受け入れていくということをやっているそうです。新聞を読んだ時、こういうのがあったらいいなと思いました。初めて農業をやる人は右も左も分からない中で、垂水市はこういう支援をしていますということを知らない方が多いんですね。垂水市はこういう支援をしていますよというPRを打ち出していければ、農業をやってみようかなという人もスムーズにできるのではないかなと思ったりすることもあります。

G会長 …… ありがとうございます。CCRCの話がありましたが、素案の中で検討するとあります。都会からシルバー世代の方々を地方で受け入れていくことで、人口を増やしていくということなんでしょうけども、おっしゃるとおり、垂水も広いですから、地理的な条件で向いているところ向いていないところもあるでしょうし、そのためには、医療とかの必要な施設も変わってくると思うので、何らかのゾーニングの発想の基にエリアごとに、子育て地域を目指していくのかとかもあると思います。具体的なことが出てくるのかなと思いますけども、事務局の方で何か考えているよということはあるですか。CCRCの導入に向けて、これからどうしていこうかなとか。

事務局 …… 素案の11ページだと思うんですけども、具体的な事業展開の中で日本版CCRC構想や小さな拠点づくりの検討と表現させて頂きました。文章を見ても分かるように、本市が積極的にやっていきたいというものについては、推進とか強化という表現をしております。今回、日本版CCRCについては、検討という言葉を使っております。併せまして、8ページをご覧頂きたいんですが、同じように、地域資源を生かした創業支援・企業誘致の推進の具体的な事業展開のところにも、地域再生法に基づく企業の地方拠点強化の検討、ここでも検討という言葉を使っています。これが何を意味するかと言いますと、基本的には情報収集を行っていて、本市に相応しいのかどうかということも含めて、検討させて頂きたいということで、まずは、検討というステージから始めたいということ整理がしてあります。

G会長 …… まだ、具体性を持ったものではなくて、検討を始めるという認識でよろしいかと思います。

それから、農業における地元の若者との接点作りについてだと思うんですけども、今は大学などでもインターンシップが非常に盛んになってきておりまして、鹿児島だとインターンシップを受け入れる企業も少なくなくて、なかなか難しいんですが、東京などでインターンシップをやって、そこで、実際の就業現場を体験して職業観をしっかりとつくり、その中の一部の人達は、そのまま、受け入れてくれた企業に就職するとい

うこともあります。そのような、本格的なインターンシップでなくても、地元の高校と協力して、高校在学中に何回か本当の農業なり漁業なりの機会をもっと設けながら、そうすると、興味を示す生徒達も出てくるでしょうし、6次産業化のアイデアも生まれてくるかもしれないですし、地域を担う将来の人づくりの観点からいくと、そういう機会もあってもいいのかなという気もいたしました。地元で仕事をしていきたいという人も多いでしょうからね。

それから、新規就農者支援もやるということですから、他の地域に住んでいる農業をやりたいという人に届かないと意味がないわけですから、如何に情報発信をしていくか、PRをしていくか、そして、その地域で新規に農業に参入したいという人を地域に如何にして引っ張ってくるか、そこの制度作りも非常に重要で、そこらあたりも新しいDMO構想の中でしっかりと組み込んで頂ければと思います。

次に、B委員お願いします。

B委員 … 先程、垂水高校の就職の話が出ましたけども、うちの農業は肝属管内なんですけど、地元の鹿屋女子高とか串良商業とか、就職を優先する高校の生徒さんが農協に4・5人入ってきていたんですけど、去年は、垂水高校も鹿屋女子高も串良商業も採用が1人もいなくて、希望する子がなくて、鹿屋農高は1人いまして、あとは、大卒が10人ぐらいいました。地元の高校生の採用がなかったのは初めてと行っていいぐらいでした。農協の職種によるのかもしれないですけど、厳しいということを感じました。地元に残るといのが揺らいできているのかなと感じました。

そして、話は違うんですけど、先週、鹿児島実業サッカー部が合宿に来ておりまして、うちの組合長がサッカー部と知り合いだったものですから、猿ヶ城に差し入れを持って行ったんですけど、この資料にも書いてありますけど、交流人口が20人で1人の定住効果ということで、やはり、観光客を呼ぶというところが、垂水にあまり観光客きていないのではと思って、修学旅行生や若い人たちが来て、垂水はいいなと思ってもらうようにして頂かないといけないのかなと思いました。

G会長 … 農協の就職も厳しいんですね。景気が良くなって、都市に流れるということになってるんでしょうね。それも悩ましいところですね。地元の子を外に取られてしまうんですね。

でも、そういう中でも、先程言いましたように、在学中からの交流を通じて、仕事に生き甲斐を感じるような子が育ってくるように思いますので、なるべく多くの子ども達が地元に残るように期待したいと思います。

観光に関しまして、教育旅行ですとかスポーツ合宿等での交流人口の拡大が重要だと思います。このあたりも、新しい組織の中で大きなメニューの一つとして取り組んで頂きたいと思います。

では、次に、C委員お願いします。

C委員 … 商工会青年部としては、婚活イベントもしておりますけども、去年から春と秋の2回しているんですが、当初は、市内の男性と市外の女性が結婚して定住を増やすという目的でして、市内では2・3組結婚しているんですけど、あとは市外で結婚しています。5年ぐらいになりますけど、10組ぐらい結婚しています。青年部でアピールするのは限界がありますので、市役所の方々にも色々とお手伝いを頂いて感謝しているんですけども、そういうのがあったり、交流人口からしてみれば、考えがまとまっていないものですから、なんとか人口増を目指したいなと思っております。

G会長 … そういったところに繋がるのは、教育旅行であったりだと思います。我々も長崎に毎年30人ぐらい教育旅行に行くんですけど、一度行くと、その地域に馴染みができまして、また、自分たちでお世話になったお父さんお母さんに会いに行くということになっております。そこから、付き合いが続いていくということになり易いです。単なる観光だと違うんでしょうけど、教育旅行なんかだと、その後の人生にも影響しますので、そういったところもしっかりと取り組んで、垂水でイベントがあるんだったら、また行ってみたいなと思うような人を増やしていける可能性もあるのかなと思います。いずれにせよ、PRが重要となってきます。ここでイベントをしているとか、魅力のある地域があることをアピールしていかないと来てもらえないということになりますから、新しいDMOによって、今までよりもパワーアップしたかたちで、推進していけるのではないかと思います。

次に、N代理委員お願いします。

N代理委員 … うちの水産業は加工場もありまして、養殖業も結構雇用の人数もいて、雇用は増えているみたいなのですが、従業員の住まいということを考えますと、牛根地区は生活圏がどうしても霧島市にありまして、養殖業者の2代目3代目でさえも、霧島市に家を建てているという状況にあります。従業員に関しましても、垂水よりも霧島市に住んでいる人が多い状況にありまして、組合員も住所が牛根にある人となっているものですから、組合員も減ってまいりまして、組合自体もこのことに関しましては、心配しているんですが、どうしていいか検討がつかない状況です。やはり、垂水の北の方の人口を考えますと、危機的状況になっているのではと思います。霧島市に住んでいる人に聞きますと、生徒が少ないから可哀想だとか病院も少ないしとかがあって、特に、牛根境、二川から流れていっていると感じます。

G会長 … ありがとうございます。次に、A代理委員お願いします。

A代理委員 … 大分県日田市のホームページを見ましたら、祇園祭やら色々ありまして、そのDMO観光協会のほうでこれから先やれることがあると思うんですけど、かんばち祭りを漁協のほうでやっておりまして、東町のお魚祭りは3万人集まるみたいで、3万人集まるということで、オブジェが登場するんですけど、そういう文化とか文明のような気がするんですよ。そういう根っこがないと、どうしても人は集まらないと思いますので、回帰というわけではないですけど、子供の頃、七草かなんかでひよろ長い帽子を被って、行列をしている写真が残っているんですけど、そういう文化みたいなものが垂水から廃れていっているといいますか、お神輿も最近はなくなっていますし、日田のホームページを見ながら、世界遺産というわけではないですけど、そういうのを垂水市としてやって、僕もかんばち祭りを10年後には、こういうようにしたいとかのビジョンがありますので、文化・文明というものを付けていかないと集客ができないと思っていますので、DMOにそういうところを期待しようかなと思っていますので、そういうところに回帰していくことが大切だと思います。そうすると、垂水市は色々やっているよねとかもでてくると思います。かんばち祭りも桜島がレベル4になってしまったので、今回は中止になるのではないかなと、9月3日でレベル4が解除されないと中止にする方向性でありますので、レベル4がいつ解除になるのか心配しているところです。

G会長 … 牛根の問題は、また別な問題で、仕事はあって雇用は増えている。でも、その人達が地元に住まない。養殖業者の2代目3代目も市外に住んでしまう。住む場所としての条件が関係しているという状況がある。地図で見ましても、垂水は広いですので、それぞれの地域で異なる状況がありますから、求められる施策等も変わってくるんだろうと思います。そこらあたりの具体的な施策の実施が必要だと感じました。なんとか、霧島に家を建てずに地元で家を建てて頂きたいと思います。

それから、海潟地域ですが、重要な問題提起だと思います。私も常々思いますけど、仕事柄日本中の色々な地域に調査に参ります。日本で行ってない県はないですし、魅力のある地域というのは、歴史・伝統・生活文化がある所だと思います。それが地域の特異性と言いますか、オリジナルな部分でございまして、住んでいる人もその地域の文化などに誇りを持って、強いアイデンティティを持って、自信を持ってその地域での生活を楽しんでいるは、他所から行った人間は魅力を感じますし、また行ってみたいと感じますし、機会があれば住んでみたいとも思うわけです。そこらへんで、垂水市のアイデンティティは何なのか。この地域の伝統的な生活文化はどのようなものがあるのか。

おっしゃるとおり、このまま放っておくと忘れ去られてしまうような、自然に希薄化していついってしまっ、埋没してしまうということもあると

思いますので、そういったものをしっかりと掘り起こして、集客に繋がるようなかたちで、観光メニューの中に上手く入れるなり、あるいは、当たり前のように、まち全体がそういうものを取り戻していくようなことになると地域全体に魅力が出てくると思います。基盤的な部分でありまして、それによって人が来る来ないではなくて、そこらあたりも視野に入れた今後の事業展開をして頂ければいいのかなと思います。

みなさんからご意見を頂きましたけども、さらに付け加えて、言い忘れたこと、聞いておきたいことがありましたら、ご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

これが最後といたしますか、ここで承認して、パブリックコメントに出すということになりますから、言い忘れたことがあれば、発言して頂きたいのですが、いかがでしょうか。

みなさんから一言ずつ頂きましたので、市長のほうから最後に一言頂けたらと思いますが、よろしくお願いします。

市長

… みなさん、本当にありがとうございます。それぞれの立場でなるほどなというご意見を頂きました。総括的にお話をさせて頂きますと、地方創生の中で地域をどうやってつくっていくのか、国の大きな戦略の中で垂水市としてどうすべきかということで、庁内においては、本部会議、様々な意見を伺うということで審議会、そして、議会の了解を頂いて、パブリックコメントで市民の皆さんのご意見を頂いて、原案になるという流れの、今回は骨子案から素案になる段階でのご意見を頂戴したということになります。その中で雇用をどうやって確保していくのか、子育て環境の充実も含めてまちづくりをどうしていくのかというところで、それぞれの立場でご意見を頂いたわけですがけれども、先程の雇用の話にしましても仕事が無い訳ではないんですけれども、儲かるレベル、一生懸命頑張って食べていけるところにはあるんですけれども、例えば、この間お話させて頂いたんですけれども、水産業について、垂水と牛根を合わせて 150 億の生産高があります。その門戸を増やして、160 億 170 億という視点もありますけれども、今の 150 億の中でも 6 次産業化、儲かる仕組みを作って国内外に広げていくというところに視点を変えると 500 億あります。350 億が 2・3 年一生懸命頑張って、一番頑張った生産者じゃない人達が儲かっている。分かり易く垂水のことと言いますと、垂水のカンパチの場合、キロ 1,000 円を目標に一生懸命頑張る。でも、次の日にタイヨーとかで刺身が 5,000 円ぐらいで出ているのはあんまりじゃないかと思います。そこの部分に、ちょっと視点を変えて仕事をしていくと可能性が出てくるのかなと思います。それを今回、基本目標ということで、4 つの目標を掲げ、これまでの行政と違って、目標値があります。これは民間では当たり前なんですけど、ノルマのような話です。30 日で 100 万円の売り上げを目指す時、今週は何万円とか今日は何万円

とかいうような積み上げで成果が出ていくわけなんですけど、行政はプロセスに、結果ではなくて、どういう方法でやっていくのかというところに視点がありますから、なかなかそういうところに着眼点がないんですけども、目標値を設定して、そのために基本的な方向性、そして、チェックしていくという、行政としては画期的なものが国の流れの中でやっていくということなんです。まさしく、生き残りを賭けて、だから、急ぎなさいということだと思いますし、先行事例に乗っかっていくと、お金が下りてくるということになろうと思います。

今日、頂いた皆さんからのご意見を十分踏まえて、素案を作って、絵を描いて、魂を入れる作業を最終的に魅力的なものになるのは、これからだと思いますので、その考え方をもとに原案をつくって、どのようなものかたちにしていくのかというのが一番重要で難しい作業でありますので、そのようなことのためにも、今日は貴重なご意見を賜りましたので、色々ご相談させていただくことも出てくると思いますので、よろしく願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきたいと思います。

G会長 …… ありがとうございます。

それでは、市長より挨拶を頂きましたので、原案作りの作業を目指しまして進めていくんですが、こういうものは総花的で、これを見ただけでは、面白おかしくするのは難しいんですが、一般の方々がパブリックコメントを書きたくなるような魅力のあるものになっていけばいいのかなと思います。

その他、事務局のほうから何かございますでしょうか。

事務局 …… 次回の審議会についてでございますが、9月中にパブリックコメントを実施し、10月中旬以降を予定しております。10月中旬以降で都合の悪い日が分かりましたら、早めに事務局のほうへご連絡頂ければと思います。よろしくお願ひします。

G会長 …… 次回は、10月ということでございますので、日程調整をさせていただいて、進めさせていただきたいと思います。

その他、委員の皆さまから何かございますでしょうか。

L委員 …… 今ちょっと見て思ったんですけど、垂水市への新しい人の流れをつくるという部分で、市の職員の方で、諸事情で他所から来ている職員の方もいらっしゃると思うんですけど、垂水市職員であるならば、やっぱり垂水市内になるべく住んでもらいたいということも、考えてもらえればなと思います。

G会長 …… 貴重なご意見ありがとうございます。なるべく、市内に欲しいということですね。

それでは、他にないようでしたら、今回の審議会は終了したいと思います。お疲れさまでした。

...

16 : 40 終 了
